

第1号議案

2020年度事業報告

I. 2020年度支部通常総会

新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言を受け 2020年5月19日(火) 書面審議による開催となった。期限までに提出された審議回答を、常任幹事会で集計し、各議案の審議結果を確認して、支部ホームページにて公開。支部規約第9条(支部正会員の10分の1)に基づき定足数の確認後、下記の議案の審議が行われ、原案通り承認した。

議案1. 2019年度事業報告承認の件

議案2. 2019年度収支決算承認の件

議案3. 支部規約改正の件

議案4. 地域会規約改正の件

議案5. 支部役員及び支部監査選任の件

総会終了後の「会員集会」と、来賓・法人協力会員・正会員を交えた懇親会は中止となった。

II. 役員会関連報告

1. 役員会・常任幹事会(幹事長:上垣内伸一)

役員会を年5回、常任幹事会を年8回開催した。今年度は既に始まっていたコロナ禍騒動の真只中でのスタートだったので、いずれも集合形式は一度も実施されず全てオンライン会議となったこともさることながら、そのための支部全体のガイドラインの作成やオンラインマニュアル、リモート環境の整備その他に相当なエネルギーを費やすなど、例年に増して常任幹事が多忙を極める一年となった。

常任幹事会では重点活動項目を取りこぼさないよう、発注者支援、委員会懇談会、事業調整、資格制度、学生フォロー、法人協力会員フォローについて担当を決めてWGとし、毎回課題の確認をしながら活発な協議が重ねられた。役員会においても単に採決の場ではなく、出席者の発言や課題提起の機会を増やすことによって連携が高められた。昨年度から導入された委員長・地域サミットのワールドカフェ方式は、リモート下でもZOOMミーティングのグループセッションを活用して、委員会と地域会の活動状況や課題の共有化など、十分な成果をあげることができたと思う。

支部予算については、今年度withコロナで実行できないイベントが多発したことや、会議のオンライン化によって経費減が生じたことなどをどこまで見込んで計画すべきかが非常に大きな課題となった(来年度予算については総務委員会活動報告を参照されたい)。このようななかなか見通しの立てにくい世情の中で、今年度から委員会にも予算計画を立てていただく要請を行い、支部としても先の読みにくい世情の中での対策強化を試みている。

コロナ禍に振り回された一年ではあったが、リモートの恩恵は誰もが認めるメリットとなっており、オンラインでの委員会と執行部との懇談会を年度内に全て実施

できるなど、これまでにない方法でのコミュニケーションを実現したのも特筆すべき点の一つと言える。オンラインについては、本部とも連携もしつつ、配信技術や場所、人材の整備育成など、会議だけでなくイベントやセミナーのオンライン化を一層進める対策も、来年度も引き続き行っていく。特に正会員とのリアルな交流機会の激減した法人協力会員に対してのフォロー策として、交流委員会の全面的な協力のもとでオンライン技術セミナーシリーズを開始したが、トライアンドエラーを重ねつつ双方の会員が満足できる活動に育てていければと強く考えている。

2. 委員長、地域サミット合同会議(副支部長:中澤克秀)

2018年度より地域サミットと委員長会議を合同で行い活発な意見交換をしてきました。今年はコロナ禍で開催方法を検討し、初のオンライン開催となりました。グループによるワールドカフェ方式が好評だったので、ZOOMのブレイクアウトセッションを使って、集合形式の会議同様の活発なグループディスカッションができました。

7月の1回目は戸惑いもありましたが、回を追うごとに参加者も慣れてきて、出席率も向上。ビデオ録画によるJIA会員への周知活用など、今後のオンラインによる会議の有効性を示すことができたと考えています。3回のテーマは以下の通りです。

第1回 委員長・地域サミット合同会議 2020/7/31

1. 2020年度方針やアクションプランの説明
2. これまでのコロナ対策の経緯とオンライン化の必要性と意義
3. 今年度の予算執行と来年度の予算編成、各会の相互理解深化の促進

グループディスカッション

- 1) これからのJIA活動や建築家の「職能」を考える。
- 2) これからのJIA活動の「交流」を考える。

第2回 委員長・地域サミット合同会議 2020/11/20

1. 若手会員の交流の場づくりと学生会員のフォロー
○杉並地域会の若手や学生との活動の紹介
○広報委員会からの学生向けの提案
○建築学生ワークショップ明治神宮 2021 の紹介
2. オンラインによる会議やイベント開催プラットフォームの検討

○アーバントリップ実行委員会の取り組み

○環境委員会の取り組み

○住宅部会のオンラインの取り組み

第3回 地域サミット会議 2021/3/26

1. 地域会の発表「地域会活動の魅力とコロナ禍での実践」

○群馬地域会:「ぐんま 街・人・建築大賞」地域との関係構築・県域地域会活動の代表として

○杉並地域会：コロナ禍でも継続する企画の実践と若手の活躍に注目

○渋谷地域会：若手会員を引き付ける月例会・開かれた地域会の運営に注目

○城北地域会：「内容の充実した機関紙の発刊・コロナ禍でも継続する活動の紹介

○城南地域会：品川区大井町コンペを実現した地域会の力・行政・まちとのつながり

○空間WSF：コロナ禍でも多くの小学校に招聘され多数ワークショップを開催している

グループディスカッション

1) 各地域会の現状報告

2) 地域会の活動の特徴・魅力

3) 地域会の課題と解決に向けて

Ⅲ. 委員会活動報告

1. 総務委員会（委員長：鈴木弘樹）

新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大で今年度の活動はすべてが異例づくしであった。その点を比較する意味も含め昨年度の項目順で活動を報告する。

■会員集会・新会員の集い・新春の集い

会員集会・新会員の集い・新春の集いは、すべて新型コロナウイルス感染拡大により残念ながら中止となった。

・新会員の集いは、主に新会員と会員・新会員間の交流、JIAの活動の紹介とJIA建築家賠償責任保険（ケンバイ）の紹介の目的で実施しており、例年、全国大会は新会員に参加補助が出るため、全国大会前に他のイベントと共同開催で、年1回実施していた。しかし、新会員は毎月入会してきており、年1回の新会員の集いととのタイミングが合わない点、JIAの活動の紹介とJIA建築家賠償責任保険（ケンバイ）の紹介は、新会員だけではなく、会員向けにあってもよいこともあり、JIAの活動の紹介とJIA建築家賠償責任保険（ケンバイ）の紹介は、オンデマンド化を現在検討中である。また、新会員の集い実施時期は、会員間及び法人協力会員との交流を活性化するため、新春の集いと共同開催を検討している。

・会員集会は、例年、新会員の集いと新春の集いの間で、他のイベントと絡めてテーマを決めて実施していたが、来年度は実施時期と実施内容を含め検討中である。

■事業調整WG

昨年度は、東京都の地域会の予算を話し合う場として実施したが、来年度も一律配分で決定しているため、予算を話し合う場は実施しないこととなった。しかし、支部長方針として情報共有や活動連携の模索は何らかの方法で進めていきたいと考え、3月26日の地域サミットで活動連携の模索を1) 各地域会の現状報告、2) 地域会の活動の特徴・魅力、3) 地域会の課題と解決に向けての3つをテーマに議論を行った。

■予算収支計画

例年、地域会と部会に作成をお願いしていた事業計画案及び予算案の資料提出を、今年度から委員会にもお願いし、予算の編成に活用した。作成いただいた皆様には、

多大なるご尽力いただき感謝申し上げます。来年度の予算は、これまでは委員会活動の区分は設けてなかったが、3つの区分に分けてその活動内容を考慮し編成した。その区分は、支部依頼活動、支部慈善活動、支部研鑽イベント活動である。その中、来年度も引き続きコロナ禍でイベント等の開催が不透明な状況であることから、支部研鑽イベント活動の委員会は、支出・収入とも50%で予算編成をおこなった。ただし、コロナ禍における本部方針に伴い調整もありうること、2020年度決算状況や感染状況の鎮静化などにより調整もありうることを補足した緊急事態下予算案とした。なお、例年の懸案事項である会員減少による収入減（150万円程度/年）に対し、来年度も収支バランスを取ったが、抜本的対策は今後の課題である。活動基盤に直結する費用の削減は苦渋の選択であるが、関係各位においては、これまでの多様な活動の維持・発展にご尽力いただきたい。

■その他の委員会活動と関連した主な行事について

今年度の委員会の活動

・JIA入会審査

・規則などの改定検討

・関東甲信越支部の事務局の働き方改革（在宅勤務や仕事の効率化など）

・学生会員入会手続きの書類簡素化

・若手会員向けのベテラン会員相談室の活性化（Web形式の検討）

・JIA25年賞の支部推薦の選出

・委員会の委員公募

など

関連行事

・5月19日：2020年度JIA関東甲信越支部通常総会（書面審議）

・7月31日：委員長・地域サミット合同会議（WEB会議）

・11月20日：委員長・地域サミット合同会議（WEB会議）

・3月26日：地域サミット（WEB会議）

など

2. 広報委員会（委員長：市村宏文）

2020年度は、コロナ禍での委員会開催となり全てWeb会議としました。Web会議アプリは支部契約のZoomではなく、テスト運用としてCiscoWebexを使用してきました。使用感の差はありませんが、法人協力会員が会社（社内）からの参加時にセキュリティー上での接続規制が無いという利点がありました。Web会議になり場所の制約がなくなりましたので、他支部からの参加が可能になり、今年度は近畿支部広報委員会から、支部会報誌発刊の参考にするとの事で参加がありました。

昨年度に引き続き交流委員会から法人協力会員3名と広報部会1名、あわせて今年度は交流委員長の参加があり、これにより交流委員会と密に連携が取れる様になりました。

今後の学生会員との取組みから、ワーキングメンバーと

して学生会員の参加受け入れ、こちらは総務委員会と協力して、学生会員主体の活動の基盤作りが始まりました。今年度の主な活動をご報告いたします。

- ・毎月1回の委員会開催、Bulletin 編集ワーキング、HP ワーキングもそれぞれで月1回開催しています。現在は全委員が2つのワーキングに参加しています。

- ・会報誌 Bulletin の発刊。前年度より特集記事のテーマを設けていますが、今年度から年間テーマとして、その特集を中心に紙面構成をする事が出来ました。特集の最後は昨年に引き続き広報委員会主催でシンポジウム（紙面連動企画）を開き、オンライン配信で多くの方に視聴していただきました。

- ・編集長の任期を2年から1年へ変更して、その前後期には副編集長を努めます。それにより編集長の特色が出る紙面になりました。

- ・支部サイト運用。毎月の委員会で運用状況を確認し、活用が出来ていない委員会・地域会等に積極的に活用するように案内をいたしました。サイト上での活動報告も充実してきました。今年度は交流委員会サイトの更新がありました。

- ・一般向けのメルマガ配信。Bulletin 発刊の1ヶ月後に配信して、内容も Bulletin の掲載記事を中心にしています。

- ・前年度より外部サイトの「LUFTA（ルフタ）」との連携をしていますが、今年度はJIA（支部、地域会、委員会、部会など）の活動が縮小せざるを得ない状況でしたので、サイトで告知があまり出来ていませんでした。

3. 建築相談委員会（委員長：小島孝豊）

支部地域会相談室は、一般市民のための身近な建築相談窓口（無料相談）として下記6か所の相談室で総計71名の相談員が対応しています。

2020年度の相談件数は下記の通りです。

（ ）の数字は昨年度の数字です。

相談室	一般相談	トラブル相談	相談件数	そのうちWeb	現地調査数	相談員
首都圏	4 (39)	18 (118)	22 (157)	16	4 (19)	26(内 休室4)
神奈川	0 (31)	0 (8)	相談中止 (39)	0	0 (2)	15
千葉	0 (2)	0 (2)	0 (4)	0	0 (0)	13
埼玉	2 (7)	21 (54)	23 (61)	5	3 (3)	8
群馬	0 (0)	0 (0)	相談中止	0	0 (0)	6
新潟	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0	1 (0)	3
合計	6 (79)	40 (182)	46 (261)	21	8 (24)	71

今年度は新型コロナウイルス感染症対策のために、特別な年となりました。JIA館の会議室などの閉鎖もあり、また各建築相談室の対応も地域の事情にあわせて相談そのものを中止したところもありました。なんとか再開した相談室も、Webによる相談になることから試行錯誤した年でもありました。2021年度もコ

ロナ感染禍の収束が見通せない状況から相談件数の回復も時間がかかりそうです。相談再開しても、依然としてWeb主体になります。相談者側のWeb環境に左右されるために相談したくてもできない方々も多いのではないかと心配しております。

○委員会の活動

（公財）住宅リフォーム紛争処理支援センター

および東京都消費生活総合センターとは建築相談の連携協力を継続しています。

○研修WGでは、例年開催を持ち回り年一回、地域合同で相談事例を発表し合って意見交換をしていますが2020年度は中止としました。

4. 保存問題委員会（委員長：窪寺弘行）

「建築」はその誕生から生命が与えられ、可能な限り生き続けることが本来の姿であり、「創造」と「保存」とは同義であるといえます。

「葛西臨海水族園」に代表されるように、昨今モダニズム建築の危機が多く見られます。建築の一部が機能しなくなったから取り壊して建替えるといった短絡的な考え方からは建築は生き続けることができません。

その建築の意味、価値を的確にとらえ、社会的支持を得るための活動が急務であると考えます。

2020年度保存問題委員会では、「旧豊多摩監獄正門」、「神保町ビル別館（旧相互無尽ビル）」、「旧吉田五十八邸」、「葛西臨海水族園」等の建築物をとおして、社会的支持を得るための活動とはいかなるものかを考えてきました。

一方的な保存利活用要望書の作成・提出だけでは十分ではなく、昨年の活動報告同様に一般市民をも取り込んだ活動が重要と考えられ、今後保存再生会議、他支部、他団体、支部内他委員会との連携がますます必要かつ重要となるように思われます。

そのような中、旧吉田五十八邸について、会員外の一般の方から保存要望を望む声がJIA宛てに届き結果的には移築保存となったことは、トンネルの先に光を見た思いです。

5. 苦情対応委員会（委員長：板橋弘和）

苦情対応委員会は、建築主や一般市民から本会会員が設計した建物や会員に係る苦情に対応する組織であり、公益法人には不可欠なものとして活動をしてまいりました。委員会は、総務委員会委員長、建築相談委員会委員長、住宅部会長を含む専門的知見をもった、9名の委員で構成されていました。

今年度は2件の苦情相談がありました。2件とも技術的な苦情ではなく、JIA会員である建築家の業務が倫理上適切ではないと思われるという苦情でした。

1件については、被申し立て人にヒアリングを行った結果、当委員会が介入すべきではないと判断したことを文書で回答し、もう一件については、詳細な内容をお聞き

する前に当委員会で可能な対応内容の説明を行い、結果として各々それ以上の要求はありませんでした。これらの苦情対応の状況を踏まえ、苦情の受付条件と可能な対応を明確化し、受付時に申立人に提示することで、受付業務及び苦情対応委員会業務の効率化が可能と判断し、「苦情受付票」を作成いたしました。来期はこの受付票の運用を行い、その効果を把握する予定です。また、今期、コロナ禍の影響もあり、十分な打ち合わせが行えなかった他支部や建築相談委員会との連携についても検討を行っていく予定です。

6. 支部建築家資格制度実務委員会（委員長：米田雅夫）

当委員会は主な業務として毎年定期的に行われる登録建築家の新規登録、更新、および再登録の書類審査を行うことです。現在委員は5名、経験者からなるWG5名から活動を行っています。

今年は10月3日に準備のための委員会会議をZOOMによるオンラインにて招集し審査会までの準備を確認しました。支部における書類審査は2月12日にZOOMによるオンライン審査を行い、3月24日の建築家認定評議会において支部として新規登録16名、更新139名、再登録12名が認定されました。更新率は上向いたもののまだまだ登録建築家の認定は遅れており、特に関東甲信越支部は会員数も多いことから当支部の動向が登録建築家制度の動向を握っているとも言えます。一層のご協力をお願いいたします。

7. 都市・まちづくり委員会（委員長：近藤崇）

当委員会では、より良い景観・まちづくりを行うために、建築分野と土木分野の協働や融合の重要性を強く認識しながら活動をしています。実際にJCCA（建設コンサルタンツ協会）の会員を委員会メンバーに招き、JCCAとの協働を活動の軸にしてきました。今年度はコロナ禍による活動自粛もあり、例年のような活動実績を残すことが出来ませんでした。7月よりオンライン形式で活動を再開し、昨年度よりスタートした勉強会（まちづくりに関わる様々な分野の専門家を招き、講演と委員メンバーとのディスカッションを実施）を継続して行ってきました（昨年度から10回の勉強会を実施）。なおこれまでの勉強会は、参加を委員メンバーに限っていましたが、その有益性を鑑み、来年度はオンライン形式等で支部会員の参加を可能とするよう、これを視野に入れた実施方法を検討します。

今年度は、2009年より継続して開催している、土木分野（≒Built Environment）との協働活動・建設コンサルタンツ協会との協働シンポジウム「誰が景観を創るのか」の開催が実現できず、これは2021年度の早期に第14回の実施を計画します。また、建築五団体や地方自治体で構成する「景観まちづくり協議会」のWG委員会に委員を派遣し、自治体に向けたデザインレビューガイダンスの支援を継続して行っています。

8. 建築・まちづくり委員会（委員長：連健夫）

当委員会は、建築・まちづくりにおける建築家の職域を拓げる仕組づくりを主目的としており、JIAの事業計画：「自然・歴史・文化・地域社会・安全等に配慮した優れた街づくりを目指して、シンポジウムや講習会の開催、市民活動や行政への支援・提言、他団体と連携した都市問題に関する調査研究等の実施」の方針にそった活動を行っています。具体的には①地域のまちづくり活動の相談や支援、②まちづくり萌芽事例シートによる情報共有や研鑽、③JIA機関誌を通しての会員への発信、④他団体の協働や連携活動です。2020年度は、コロナ禍の中、オンラインで委員会を行い、SDG'sやWITHコロナ社会における建築・まちづくりをテーマにディスカッションを行うと共に、新潟における民家活用保存活動の講演会などを実施しました。発信においては、ブルチンにて「WITHコロナ社会における建築・まちづくり」「透明性の高いプロポーザルは良質なまちづくりに繋がる」等の寄稿を行いました。2021年度は、これらの活動を深めると共に、SDG'sのまちづくりに関する情報収集を実施する予定です。

9. 災害対策委員会（副委員長：風戸宏孝）

昨年度はコロナ禍の中、年6回行われる予定の委員会が1回少ない5回となったが、ZOOM会議での開催でなんとかコミュニケーションは図れたようである。委員会の他に、この令和3年4月7日に開かれる長野地域会主催の「災害における復興活動から学ぶ」という勉強会は、支部災害対策委員会のリーダー的存在である長野県のメンバーによって、令和元年の台風19号の災害復旧の結果の報告と今後の課題という内容で開催される。また同時に、RMO（災害総合支援機構）や災害復興まちづくり支援機構、そして、JIA本部の災害対策全国会議との連携も図っている。記憶に新しいところでは、令和3（2021）年2月13日に福島県沖で発生した地震の震度が6弱以上であったためJIA本部では災害対策本部が招集されたが、現地からあまり大きな被害は報告されなかった。この地震は東日本大震災の余震という推定だが、平成23（2011）年3月11日14時46分から10年の月日が経つ今、改めて強い恐怖を感じる。支部災害対策委員会としては、すでに皆様にご協力頂いている、このような時に役に立つ災害ネットワークの完成が急務である。

最後に災害対策委員会の中でよく出る話の中で、災害対策委員会の意味についての議論の中、太田委員からの「建築家として何が出来るか、そして、我々が火付け役となり様々な状況に対応していくこと」という言葉が印象に残る。

10. 環境委員会（委員長：宮崎淳）

持続可能な環境建築の推進と実践に向け、会員並びに社会に有用な情報を発信することを活動目標としています。

今年度は次の活動を行いました。

□「改正省エネ法」情報交換セミナー 全3回：オンラインセミナー

2021年度から300㎡未満住宅・建築物の新築設計時に建築士に課せられることになる「説明義務制度」にポジティブに取り組むことを目的として、『「改正省エネ法」情報交換セミナー』を7月、8月、12月の3回にわたって開催しました。各回のセミナーの前半では、国土交通省の上野翔平氏に、説明義務制度自体やその進め方等について3回に分けてご説明いただき、後半では実例を交えて、省エネへの取り組みや、省エネ計算プログラムの使い方等について講義を行いました。

3回とも、約100名の方に参加していただくことができ、非常に活気のあるセミナーとなりました。オンラインであったことから、北海道から沖縄の方まで参加していただくことができたのが良かったと感じています。セミナー終了後にアンケートの回答をお願いしたのですが、予想以上に多くの方から様々な有用なご意見が寄せられ、今後の運営に役立つ貴重な資料となりました。有料のセミナーだったのですが、第3回から参加費の入金にPeatixを使えることになり、省力化が可能になったことも、今後の開催に役立てることができると感じました。

□SDGs×建築×環境セミナー 第2回『公共建築とSDGs』：オンラインセミナー

8月にSDGs×建築×環境セミナーの第2回目を開催しました。法政大学の川久保先生にSDGs全般についてお話をいただいた後、袴田喜夫建築設計室の袴田喜夫氏と久米設計の横田順氏に、設計された自作とSDGsとの関わりについて語っていただきました。ディスカッションでは、質問の多く活発な議論ができました。来年度は5月第3回を開催予定です。

□見学会

毎年開催している環境建築の見学会は、残念ながら今年度は開催できませんでした。早く見学会が開催できるような社会状況に戻ってくれることを祈るばかりです。

11. アーバントリップ実行委員会 (委員長：佐藤文人)

アーバントリップ実行委員会では、昨年度末、新型コロナウイルス感染症「COVID-19」の対策に伴い、通常の施設見学会を中止・断念しました。

それに代わって、初めての試みとして、オンライン中継によるアーバントリップを開催しました。

■第92回アーバントリップ オンライン

日程：2020年10月22日(木)17:00～19:00

テーマ：「私の家」から清家清を探る

見学先：「私の家」建築家清家清が実家敷地の片隅に建てた小さな家。当時、公的融資上限約15坪以内で導き出した豊かで柔軟性のある”ワンルーム”という解答のミニマリズム住宅。

また、ZOOMによるオンライン見学会の収録動画を編集し、本部YouTube JIA Videoへ掲載するとともに、初のアーバントリップアーカイブ動画第1弾を一般公開。

■第93回アーバントリップ オンライン+シンポジウム(延期)

日程：2021年1月27日(水)13:00～19:00

テーマ：大井町駅前パブリックスペースへフォーカス

見学先：品川区大井町駅前公衆トイレ

シンポジウム：きゅりあん

2021年1月8日～3月21日新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う緊急事態宣言発出をうけ、中止・延期。次年度、再開へ向け準備中。

12. 建築セミナー実行委員会 (委員長：小堀哲夫)

今年のテーマは「環境と人の新しいつながり」として、受講生は19名、実行委員は委員長、ワーキングスタッフを含め9名、及びOB3名の助けを借りて運営した。年間のプログラムは以下の通り、7プロジェクトで13講座である。

1. 開講 | 公開講座 | これからの建築と建築家の仕事 | 内藤廣[建築家]

2. SDGs、21世紀のランドスケープを考える

映画上映 | ザ・ガーデンズ・オブ・ピット・アウドルフ FIVE SEASONS

講座 | FIVE SEASONSの世界を追って～現地の取り組みから日本での実現性 | 平工詠子[ガーデンデザイナー]

講座 | 20世紀のモダニズムと自然主義から21世紀のアウドルフまで | 吉谷桂子[ガーデンデザイナー]

見学 | 青山通りの『まちニワ』プロジェクト[吉谷桂子設計]+シンボルプロムナード公園花の広場[有明駅前、平工詠子設計]

スライドショー | がん無料相談所「英国マギーズセンター21施設の建築と庭」

3. 2030年、活動と建築と人がつなぐ～ワークショップのパイオニア達

講義+対談 | ワークショップのあり方 | 上田信行[ネオミュージアム館長]+小堀哲夫[建築家、法政大学教授]

講義+対談 | これからの劇場のあり方 | 伊東正宗[シアターワークショップ代表]+小堀哲夫

見学+対談 | これからのイノベーションを生むワークスペースのあり方 | ティム・ロウ[CIC代表]+小堀哲夫

4. 未来のワークプレイス

講義 | 相浦みどり[PLP ARCHITECTURE]

5. 「環境×IT」のこれから

見学+講義 | 伊勢田元[竹中工務店設計本部]

6. リノベーションからテンポラリーへ

講義 | テンポラリー・アーキテクチャー/柔らかい都市のつくりかた | 馬場正尊[建築家、Open A、公共R不動産]

講義 | 人々を魅了するFabricsのデザイン/歴史ある建造物のReデザイン～最新のParis Hotel～Circle of Life | 御所文子[マナトレーディング]

講義 | 延築、弘前れんが倉庫美術館[2020年、田根剛設計] | 田根剛[建築家、ATELIER TSUYOSHI TANE]

ARCHITECTS]

7. 地域で近現代建築が残され、使われる理由

見学+講義 | 弘前市内の前川建築及び弘前れんが倉庫美術館等の見学+なぜ前川建築が残り、使われるのか | 前川建築を守る会

今期はコロナ禍にあって、3月末日で見学会2つと講義1つを残す。4月以降、コロナ禍の状況を鑑み、実施する予定である。コロナ禍によってオンライン講座を実施し、その利点と欠点が確認できた。欠点は見学ができないこと。利点は、受講者を含めた関係者にも公開し、広く学習してもらうことができた。また、海外の講師の登壇も可能となった。次期の企画に反映したい。

13. JIA トーク実行委員会 (委員長: 椎名英三)

1976年よりスタートしたJIAトークは、日新工業株式会社の協賛により、2020年度は、通常は年4回であるのですが、中止となった2019年度の第4回目の会を繰り越し、年間5回を予定していました。

第1回を5月22日に、国立天文台教授、水沢VLBI観測所所長、総合研究大学院大学及び東京大学大学院の併任教授であり、2019年4月に国際プロジェクトとして巨大ブラックホールの影の撮影に成功し発表した日本チームのリーダーでもある本間希樹氏を予定していましたが、新型コロナウイルスによる政府発動の非常事態宣言下であり、感染症の影響を考慮し、次年度へ延期しました。2019年度から延期となっている和紙作家 堀木エリ子氏も、オンラインでの開催では魅力が伝わりづらく、延期となりました。

JIAトークのもともとの魅力はあらゆる分野の著名な講師の方々の生の声を聞き、交流できるクローズドの会ということであり、パフォーマンスなど、出席された方々のみ体験できる貴重な会となっています。そういった会の性格上、その後もコロナ禍での状況で講演者予定が立たず、今年度の開催は断念いたしました。JIAの指針では、平常時の建築家会館に集まっていた講演会は事実上、コロナウイルスがコントロールできるほどの正常時にもどらない限り推奨されないとあり、今後、しばらくはオンラインでの活動が必須となるため、来年度に向け、オンラインでも可能な方々を講演者として開催する方向で検討しております。

14. 学生デザイン実行委員会 (委員長: 松村哲志)

学生デザイン実行委員会では第29回東京都学生卒業設計コンクール2020を開催しました。新型コロナウイルス緊急事態宣言下での開催ということもありオンラインによる非接触型の審査会を実施。5月1日に一次審査、5月9日二次審査をライブ配信により公開で行い、未曾有の事態にも建築への歩みを止めないことを学生たちとともに体現することができました。一方で本来このコンクールが大切にしていた対話について、またオンラインでの審査への疑問点も見えてきた結果となり、そ

れらを踏まえながら、広くみていただけるオンラインの特性を活かしたコンクールにすべく、月1回程度で委員会を開き、次年度の開催準備を進めております。

今年は参加校24大学5専門学校から53作品が参加。審査委員長には山梨知彦氏、副審査委員長に駒田剛司氏、審査委員には齋藤精一氏、柄澤麻利氏、田根剛氏を迎えました。大変充実した議論の結果、金賞、銀賞、銅賞、審査委員特別賞の10作品を選出して頂きました。学生のモチベーション向上を意図し広く評価を行う目的で始まった当委員会では選ぶ奨励賞には2作品を選出しました。11月には作品集も完成し活動内容の情報発信を行っております。また、今年度から公開審査の動画配信を行い、多くの方が視聴。建築教育への貢献を一步進んだ形で実施しました。

さらに昨年度より行なっておりましたアーカイブ化をさらに進め、アーカイブサイトの設立を準備しております。今後、これまで積み上げてきた充実した実績を生かして更なる情報発信を行い、一步進んだ形での建築教育への貢献を模索していく活動を行なっていきます。

15. 大学院修士設計展実行委員会 (委員長: 日野雅司)

「大学院修士設計展」は第19回目を迎え、参加校・出展数とも昨年度と同程度があつまりました。2012年度よりWEB展を継続しつつ、図面と模型を展示する展覧会を開催し、建築家の単独審査による審査、講評を行うこととしています。また、展示作品と審査・講評、各大学の研究室紹介をおさめた作品集が総合資格学院の協賛を得て、毎年刊行されています。

2020年度は昨年に引き続き、新型コロナ感染症の影響により、展覧会および公開審査は中止し、書類審査および選抜9人だけが参加する発表審査を行いました。本年度はその様子をウェビナーによりリアルタイムで発信を行いました。配信については、この場を借りて関係者皆様へ御礼申し上げます。

次年度はぜひ通常開催にとどまらず、修士設計に対する各大学の取り組みを共有し、日本の大学院における建築教育のあり方に提言ができるような、シンポジウム等の開催も検討しており、より一層の発展を期したいと思います。

一次審査: 2021年3月9日、二次審査: 2021年3月19日、於: 建築家会館 審査員: 大野秀敏氏
参加大学: 26大学 (28専攻) 出展数: 44作品

16. 交流委員会 (委員長: 相野谷誠志)

交流委員会の活動は、前年度よりの新型コロナウイルスの影響で、通常の対面で行う会議や正会員と法人協力会員(一部個人会員)の交流を図るイベント(施設見学会・ゴルフコンペ・セミナー等)が全く行えない状況でした。JIA全体でも、全国大会の中止等もあり、会員どうしの交流を図る場を失われてしまいました。

その中で、現在早いスピードで広まってきているオンラインを使ったリモート会議やセミナーを企画し、法人

協力会員から発信する設計者への有意義な情報伝達を図る試みを実施しました。

「オンライン技術セミナー」として正会員の方のセミナーの参加をいただき、3回ほどですが、実施にこぎつけられました。

まだまだ、セミナー開催の方法や正会員の方への広報の仕方等を検討模索しながら進めている状態ですが、今後もこの企画を継続して、今のコロナ禍での状況への対策から、今後の正会員と法人協力会員との交流の在り方の変化に繋げていければと考えています。

全委員長の河野委員からの方針継続として、正会員との活動を共有（参加）しながら、法人協力会員がJIA活動に貢献できる方法も、さらに広めていきたいと考え、支部広報委員会への参加や建築まちづくり委員会への参加、情報提供を進めています。

さらに、法人協力会員の力が必要とされる委員会や地域会への積極的な参加も検討を進めていきたいと思えます。

他の委員会と同様に新たな会員の発掘（正会員・法人協力会員共）も急務な課題と感じていますので、委員会の活動に協力いただいている会員の方たちの力を借りて、良い方向へ進めていきたいと考えています。

IV. 部会活動報告

1. デザイン部会（部会長：山本想太郎）

本部会の活動は公開イベントを中心とするものですが、本年度については新型コロナウイルス感染症流行に伴う自粛措置のため、昨年度から開催延期していた公開トークイベント「建築コンペとは何か」を含め、イベントの実施は全面的に見送りました。オンライン形式での公開イベント開催については、使用映像の著作権問題、参加費の徴収方法などの課題がなかなかクリアできず、現在も検討中です。

一方で、2019年に開催した公開イベント「日本型規制社会と知的生産—イタリアンセオリーから学ぶもの—」（NPO日本デザイン協会と共催。登壇者＝神田順（東大名誉教授）、大倉富美雄（NPO日本デザイン協会理事長：進行）、連健夫（日本建築まちづくり適正支援機構代表理事）、山本想太郎）について、会報誌Bulletin（2020年夏号～2021年春号）にて、トーク記録と大倉富美雄氏による報告の形で、記録をまとめました。

本部会はこれまで、主として建築・アート・デザイン、そしてその職能をテーマに、ゲストを招いた公開トークイベントや見学会を基本として活動を行ってまいりましたが、そのような対面集会イベントが開催できない状況が続いており、今後は、上記の課題を検討しつつ、オンライン・イベントの開催も模索する予定です。

2. 都市デザイン部会（部会長：宮崎淳）

毎年、講演会やまち歩きを開催、部会員によるショートレクチャーと活動報告、研修旅行と積極的な活動を主催してこられた、鈴木和貴氏から部会長を引継ぎ、最初

の一年が過ぎましたが、私の力不足とコロナ禍で昨年度は残念な一年となってしまいました。

2020年は春に研修旅行を開催しようということになり、5月30～31日の一泊二日で、茨城県と栃木県を巡る研修旅行を企画しました。部会員の皆さんから見学すべき建築や話題作を推薦して頂いてコースを決め、約20名の方にご参加いただける予定でした。コロナ禍が収束することを期待して、ぎりぎり連休明けまで決定を先延ばししていましたが、残念ながら中止の決定をせざるを得ませんでした。

その後も、毎年恒例の部会員によるショートレクチャーを開催するタイミングを見計らっていましたが、結局、実際に集まる会を開催できるほどコロナの勢いが収束することはなく、タイミングを逸してしまいました。

今年度も研修旅行の開催は難しいと思いますが、昨年1年で培ったITスキルを活かし、リモートでの講演会、部会員によるショートレクチャー・活動報告会を開催したいと考えています。

3. 住宅部会（部会長：米田雅夫）

2020年度のテーマ

本年度は年間テーマ建築家について考えよう（住宅設計の未来）とし、建築家賠償責任保険や設計監理契約書からみえる建築家の職域と責任について考える機会を設けました。建築士という称号は無資格者が使用することはできません。しかし法制化されていない建築家という称号は定義が曖昧なままです。大きな変化点にある現在、建築家とはということは引き続き考えていきたいと思えます。

2. 運営について

1) 住宅部会の日（勉強会、作品レビュー、見学会、講演会、作品展、納会など）

原則毎月1回、部会活動の日時と場所を設け、主に会員相互の研鑽、情報交換や交流を目的とした企画を開催しました。2020年度は原則第三火曜日を活動の日とし、その他適宜イベントに応じた曜日や日時を設定しました。

2) 市民講座WGはセミナー会場閉鎖に伴いWEBサイトにコラムを連載しました。

新型コロナウイルスで暮らしと住まいは変わる

<https://www.jia-kanto.org/jutaku/column/>

主な実施した行事

第1回 住宅部会の日 <4月21日(火)>

総会・納会 + 住宅部会賞2019 発表&表彰、他

第2回 住宅部会の日 <5月21日(火)>

2019年度部会賞の発表

住宅部会賞5選

中村雅子 船の家

飯沼竹一 車窓のほっこりする家(?松波の家#2) <選考委員賞(郡山貞子)>

横堀将之 山河の家

関本竜太 パーゴラテラスの家 <渡辺武信賞>

土田拓也 sabi <住宅部会長賞(中村高淑)>

CPD (2 単位)

2020 年 5 月 19 日 (木) 住宅部会 部会の日 Web オンラインにて表彰状授与、ならび住宅部会 Web サイトおよび JIA 会報誌への掲載

選考委員長：中村高淑/住宅部会長(第 40 代)

特別選考委員：渡辺武信/第 6 代住宅部会長、名誉住宅部会員

選考委員：郡山貞子/第 30 代住宅部会長

第 3 回 住宅部会の日 <6 月 23(火)>

住宅部会賞 作品レビュー

※一人あたり 15 分+質疑応答 5 分

第 4 回 住宅部会の日 <7 月 21(火)>

(Web 会議)「ウィズコロナ時代のあたらしい設計活動を探る」CPD (2 単位)

進行役：関本竜太/登壇者：中村高淑・伊波サチヨ

第 5 回 住宅部会の日 <8 月 18(火)>

協力会員紹介、(東京工営、SFA 各 10 分程度)

JIA 住宅部会オンラインセミナー

「事故事例から学ぶ、建築家の責任と意識しておきたいこと」(90 分)

進行役：米田雅夫

登壇者：JIA 業務委員会 保険 WG?主査 興?尉氏

・損害保険ジャパン株式会社 団体・公務開発部 第二課課長代理 中原史陽氏・本店専門保険金サービス部 専門賠償・保証保険金サービス課 ?最川康広氏 建築家会館 支配人 田辺?靖氏

第 6 回 住宅部会の日 <9 月 15(火)> CPD (2 単位)

19:15~(オンラインセミナー)「北欧 アルヴァ・アールトを巡る旅」ガイド役：関本竜太

協力会員紹介 (イケガミ・LIXIL)

活動会議

JIA 住宅部会オンラインセミナー「北欧 アルヴァ・アールトを巡る旅」(90 分)

第 7 回 住宅部会の日 <10 月 20(火)>CPD (2 単位)

オンラインセミナー「建築家による住宅の設計・監理委託契約約款はどうあるべきか」

講師 大森文彦?氏 (弁護士、東洋大学法学部教授、四会連合調査研究会法律顧問)

講師 天野禎蔵氏 (JIA 約款 WG 主査、四会連合調査研究会委員)

聴講対象 JIA 住宅部会員 JIA 会員 CPD 登録者

司会・進行 寺山実(住宅部会)

第 8 回 住宅部会の日 <11 月 17(火)>

オンラインミーティング「コロナ禍~私達の仕事で変わったこと! 変わる! 変えたいこと!」

聴講対象 JIA 住宅部会員 JIA 会員 (他支部住宅設計関係者)

コーディネーター 高橋隆博 (アトリエ秀しゅう)

協力会員紹介 (スタジオネオ 伊波サチヨ氏)

第 9 回 住宅部会の日 <12 月 15(火)>

Zoom 忘年会開催!

第 10 回 住宅部会の日 <1 月 19(火)>??CPD プログラ

ム (2 単位)

オンラインセミナー「バルセロナに暮らして」

ガイド役：中村雅子

活動会議

インフォメーション (住宅部会賞 2020 について)

JIA 住宅部会オンラインセミナー 「バルセロナに暮らして」(90 分)

第 10 回 住宅部会の日 <2 月 16(火)>CPD (3 単位)

「第 3 回住宅部会賞 10 宅選」公開選考会

募集期間 2021 年 1 月 15 日(金)~2 月 15 日 (月)

賞 「住宅部会賞 2020 10 宅選」10 作品以内 (うち選考委員賞?3 作品)

選考方法：オンライン公開選考会にて応募者によるプレゼンテーション

選考委員長：米田雅夫/住宅部会長(第 41 代)

特別選考委員：渡辺武信/第 6 代住宅部会長、名誉住宅部会員

選考委員：荒川幸子/第 23 代住宅部会長

第 11 回 住宅部会の日 <3 月 16(火)>

納会・総会 住宅部会賞発表会

第 3 回「住宅部会賞 2020 10 宅選」結果報告 発表 & 表彰式 (3 月 16 日)

住宅部会賞 2020 10 宅選

選考作品

「Y-House and Studio」 中村雅子

「土間のある平屋の家」 横堀将之

「四季を感じながら住む家」 中澤克秀 (渡辺武信賞)

「住み継ぐ家」 丹羽修 (荒川幸子賞)

「えねこや六曜舎」 湯浅剛 (部会長(米田雅夫賞))

4. メンテナンス部会 (部会長：奥澤健一)

今年度の前半は新型コロナウイルスの感染拡大をうけて、約 30 年間に渡り継続してきた毎月の部会会合とセミナーの開催を見合わせました。感染拡大が海賊する中、新たな試みとして 10 月からリモートによる会合とセミナーの開催を始めました。2019 年度に発刊した冊子「マンションを 100 年以上使っていくために今やるべきこと~築 50 年時代のマンション再生~」を題材としたセミナーで、建築士などの専門家に限定せず、マンション管理組合の役員や居住者をはじめ、マンション管理に携わる方々に広く公開するかたちで開催しています。セミナーの講師は部会に所属するメンバーが中心ですが、マンション管理組合の役員経験者の方にも公演を依頼し、コミュニティ形成や長寿命化に向けた独自の取り組みなどを紹介していただいた。当初は 10 名そこそこの参加であったが、しだいに参加人数も増えてきて、5 回目にして 50 名近くの参加があり、新たな手法として普及し定着するようになるものと期待されます。また、徐々にではありますが、(公財)マンション管理センター主催の全国セミナーへの講師派遣や、地方公共団体、マンション管理組合団体などからの相談や公演依頼なども再開されてきました。今後も引き続き建築物、特に分

譲マンションの修繕や改修をテーマに、部会メンバー間で実践的な技術情報を共有して研鑽を積んでいきたいと考えます。また耐震改修や設備改修、超高層マンションの大規模修繕などにも積極的に携わり、マンション管理組合の支援をしていきたいと思います。

5. 住宅再生部会 (部会長：岸崎孝弘)

20年度はコロナ禍により、思うような活動を行うことができずに終わった。

定例の幹事会もZOOMにて4月及び5月に行って以降、12月に3回目を実施したのみで、21年に入ってから開催を見送り現在に至っている。住宅再生セミナーは1回も開催できずに終わっているが、オンラインでのセミナーなどを今後検討する予定である。

フィールドワークも実施できなかったが、展示会やオープンハウスなどの情報をメールなどで共有し、参加できそうなものには各個人で参加し研鑽を積み重ねている。

住宅再生部会では自由に誰でもが参加出来るセミナーとしているため、多くの聴講者が集まり、毎回熱心な議論が行われるのが常であるので、今後もセミナーが開催できるようになったら改めて広報し、オープンな開催を行いたいと考えている。

引き続きのテーマとして、空き家問題、超高層マンションの問題など、職能としてのインスペクション制度などにも展開を広げており、勉強会や見学会から、人の輪を広げる展開を行いたい。

継続して既存木造住宅の耐震性能を向上させる工法・技術や環境にやさしいエコロジーについて学ぶ研究会をセミナーと同時進行形で行うことを検討しており、今後もこの活動を続け、住宅再生の実践も増やしていくことが大切と考えている。

これらを21年度の幹事会で検討し、コロナ禍の状況によって様々な活動を展開していきたいと考える。

6. 情報開発部会 (部会長：天神良久)

情報開発部会は法人協力会員Gグループと合同で、月に一回部会・勉強会を開催しています。主なテーマはIT系(CAD、CG、情報通信)と、時の技術動向に関する勉強会が中心です。講師をお呼びしたり、会員内から新情報を発表してもらったりしています。

2020年度は、コロナ禍での開催のため、勉強会の開催は若干減りましたがWeb会議を利用して開催しました。勉強会のテーマ事例は、「ZOOMによるデスクトップ会議」、「Microsoft Teamsによるデスクトップ会議」、「IoTを利用する施設管理・コンサル」、「室内3次元データ収集ロボット、人の入室データリアル管理手法」、「海外建築家の設計スタイル・ITツール・職能等に関する最新情報」等々を開催しました。

見学会は、2020年度は中止となりました。新会員は随時募集中です。JIA 関東甲信越支部のホームページに「勉強会」のお知らせを掲載しています。ご興味の方はお気軽に部会・勉強会にご参加ください。

7. 建築交流部会 (部会長：観音克平)

4月15日(水) 15:00~21:00 5階A会議室
近代洋風建築研究会/家協会建築交流部会臨時部会
深尾精一先生

新型コロナ感染防止のために中止

以下同様に新型コロナ感染防止のために中止

4月22日(水) 18:30~21:00 建築家クラブ

第1回家協会建築交流部会(総会)

5月20日(水) 15:00~21:00 建築家クラブ

近代洋風建築研究会 18:30~21:00 建築家クラブ 第2回家協会建築交流部会

6月10日(水) 15:00~18:30 5階A会議室

18時30分~21:00 建築家クラブ

6月17日(水) 18:30~21:00 建築家クラブ

第3回家協会建築交流部会

7月15日(水) 15:00~21:00 建築家クラブ

近代洋風建築研究会/家協会建築交流部会臨時部会(総会)

7月22日(水) 18:30~21:00 建築家クラブ

第4回家協会建築交流部会

8月27日(木) 吉祥寺南口ルノアールにて、第5回家協会建築交流部会

秋の旅行は見送り。

観音、木村、小倉、亀井 出席

9月23日(水) JIA館5階会議室A 16時~17時半、第6回家協会建築交流部会

観音、木村、小倉、亀井 出席

10月28日(水) JIA館5階会議室A 16時~17時半、第7回家協会建築交流部会

上田、観音、木村、小倉、古池、亀井 出席

11月18日(水) JIA館5階会議室A 16時~17時半、近代洋風建築研究会/家協会建築交流部会臨時部会

観音、小倉、亀井 出席

11月25日(水) JIA館5階会議室A 16時~17時半、第8回家協会建築交流部会

新型コロナ感染防止のために中止

12月16日(水) 三鷹駅前周辺コミュニティセンター(三鷹市下連雀3-13-10) 16時~18時50分、15時半三鷹駅改札口集合してから移動。第9回家協会建築交流部会

部会会計状況報告など。

観音、小倉、木村、大森、亀井 出席

1月~2月定例会休み

3月31日(水) 三鷹駅前周辺コミュニティセンター(三鷹市下連雀3-13-10) 16時~。第10回家協会建築交流部会

8. 再生部会 (部会長：大橋智子)

再生部会は、歴史的に価値のある建築物を使い続けるための活動を継続して参りましたが、今年度はこれ

まで毎月開催していた例会を定期的に開催することができず、シンポジウム、セミナーの開催もできませんでした。WEBでの例会は情報交換の場として、各地の歴史的建築の状況を報告しました。WEBでの開催により、関東以外からの参加もあり、部活動開始当初目指していた全国的な繋がりを持つことも可能になり、今後の広がりが期待できます。又次年度活動の方針を立てました。

■各地からの報告：1. 熊本豪雨による文化財被災状況
2. 広島旧被服支廠保存の方針について 3. 文化庁近現代調査今後の状況 4. 解体された旧後楽社農園別邸の報告 5. 関西の歴史的建築保存状況

■見学会の開催：1. 10月9日 支部+千代田地域会+保存問題委員会で保存要望書を提出した「神保町旧相互無尽ビル」の解体前見学会を共同開催で行いました。
2. 10月21日 修復が終わり保存活用されている「九段ハウス（旧山口萬吉邸）」の見学会を行いました。

9. ミケランジェロ会（部会長：亀井天元）

7月21日（火）13時～26日（日）16時 渋谷ギャラリー大和田にて「2020 ミケランジェロ展」開催
2月頃より世界的に新型コロナ禍に見舞われる中、昨年の大和田の展示に続き、ミケランジェロ会の展示活動を開催する。

7月21日（火）午前中設営（11時過ぎから）

7月26日（日）午後撤収（16時頃）。

油彩画、水彩画、エッチング、ガッシュ、陶芸、
展示参加者：阿部、明智、村井、観音、亀井

11月11日（水）JIA 館5階会議室A 16時～17時、
ミケランジェロ会会合

出席者：観音、小倉、亀井

2021年に入り、緊急事態宣言延長される中、メール意見交換などで、次回会合展示の検討。

10. 金曜の会（部会長：久保田恵子）

金曜の会は、建築家クラブの活性化を目的とし、毎月1回トークイベントを開催しています。建築家会館のクラブ・バーは、開設当時、前川國男等と語りあえる場、各分野の方々との交流の場として、とても賑わっていましたが、一度は閉鎖、2008年前川國男が提唱された「処士横議の場」の復活を目指し、クラブ・バーの再開、建築家クラブが併設されました。

現在、金曜の会では、“建築”をキーワードに、JIAの会員のみならず、学生、一般の皆様と共に、学び・楽しみ・語り合えるサロンとしての活動を行っています。

しかしながら2020年度は、“新型コロナウイルス感染症”により、皆で集まるということが難しい状況となりました。建築家クラブで集まることを大切にしたいという考えから、リモート発信にすぐ移行という形にはせず、対面での開催の時期を模索しておりましたが、建築家クラブでの開催は叶いませんでした。2021年度は、臨機応変にリモートも交えながら、進めていけたらと考えており

ます。

一方で、貴重な講演をきちんと残していこう、と進めておりました、2015年に開催した香山壽夫氏の6回連続講座を“金曜の会の記録”として書籍化をすることができました。

香山先生をはじめ、関係者の皆様には改めまして感謝申し上げます。葉には、建築家会館のあゆみや、建築家クラブができるまでのこと、金曜の会の開催年表、など掲載させて頂きました。とても素敵な本になりましたので、ぜひたくさんの方に手にとっていただけると嬉しく思います。

日本建築家協会+建築家会館【金曜の会】の記録

香山嘉夫の炉辺談話～建築は人の心の共同の喜び～
香山嘉夫著 建築ジャーナル出版

11. 学芸祭部会（部会長：大川宗治）

学芸祭部会は、協力会員も含めたJIA会員同士の交流という目的のもとに活動しております。例年は、新年の集いやJIA大会における演奏などの活動を通じ、他の支部を含めた会員同士の交流を図っておりましたが、今年はその機会がなく、活動はありませんでした。

V. 地域活動報告

1. 神奈川地域会（代表：小泉雅生）

今年度の神奈川地域会では、前年度に引き続き「サステナビリティを考える」を活動テーマに掲げました。例年通り、様々な活動をしていく所存ではありましたが、コロナウィルスの感染拡大の影響を受け、大幅に見直しを迫られることとなりました。

まず、4月の総会を書面表決に切り替えたのをはじめとして、月に一度の定例の役員会もすべてオンラインで開催ということになりました。また、協力会の方々と一緒に納涼会や望年会も見送らざるを得ませんでした。昨年好評だった秋の建築ツアーも中止。唯一、新年会として懇親会を開きましたが、これもオンライン上でのいわゆる「ZOOM飲み」という形でした。

また、対外的な活動においても、JIA 神奈川のメイン事業であった冬の建築祭は、昨年に引き続き見送りとなり、卒業設計コンクールのみオンラインで開催いたしました。他の一般向け活動についても、建築相談室は開催できず、空間ワークショップも3月の関東学院小学校など、2回の開催に留まりました。緊急事態宣言を受け、社会全体の活動が低下する中では、団体としての活動も、低調なものとならざるを得ませんでした。活動をいかに維持するかというサステナビリティが問われるような状況でした。

そのような状況下ではありましたが、緊急事態宣言の合間を縫うように、「村野藤吾展－旧横浜市庁舎の建築家」と「建築フォーラム」としての2回のシンポジウムを開催いたしました。一昨年の建築祭のシンポジウムで村野藤吾設計の旧横浜市庁舎の活用についての話題を取り上げましたが、その一環の活動ということになりま

す。

村野藤吾展は、JIA 神奈川を中心とした実行委員会(事務局 AND150)で企画・運営されたもので、京都工芸繊維大学美術工芸資料館他の資料協力、BankART の会場協力、事業予定者をはじめとする各社の協賛を得て、「M meets M」と題して榎文彦展との2人展として開催されました。コロナ禍の様々な制約のもとではありましたが、総入場者数 6840 人(内有料入場者 5529 人)を数え、メディアにも数多く取り上げられ、大きな反響を呼ぶことが出来ました。

建築フォーラムにおいては、「旧横浜市庁舎の歴史・文化的価値を探る」「旧横浜市庁舎の可能性について—20世紀建築の保存と活用を考える」と題して、展覧会と連携したシンポジウム企画を行いました。会場とオンラインとの併用で開催を行い、例年以上の参加人数となりました。

これらの企画において、展覧会では神奈川建築士会と連携、シンポジウムでは横浜歴史資産調査会と共催するなど、他団体とも協力しながら行うことができたのも大きな収穫でした。一団体だけでは活動に限界があるのも事実です。今後も、小さな枠に収まらず、活動を広げていければと思います。

ほか、卒業設計コンクールは、審査員の協力を得て完全オンライン形式としましたが、審査の過程を同時に公開で配信するなど、昨年よりパワーアップした形で実施できました。いろいろと試行錯誤をしながらではありましたが、着実に成果をあげられたかと思います。

このような状況下でも、JIA 神奈川がアクティブに活動を継続できたことを心強く思います。コロナに振り回された一年でしたが、その中で何が出来るのかを模索することを通じて、新たな可能性を見つけることができ、そのような観点では有意義な一年であったといえるのではないのでしょうか。

また、そういった活動が実現したのも、協力会の方々の支援、(一財)神奈川建築安全協会からの助成、総合資格学院からの協賛、横浜市のサポートあつてのことです。この場を借りて感謝をしたいと思います。

最後に、JIA 神奈川の組織運営についてですが、新年度より事務局に花岡さんが加わりました。また、役員にも少しずつ若手のメンバーが加わるようになりました。アクティブな活動を長く継続していく組織でありたいと思います。

2. 千葉地域会 (代表：榎本雅夫)

■「千葉の森林再生プロジェクト」(2020年2月～2021年4月)

一昨年、千葉県を襲った強力な台風により各地で倒木被害が発生した。以前より千葉県、森林組合、友好団体等と協働して地元木材活用への知見を高める活動をしているが、さらに倒木の状況、森林再生と林業のあり方、SDGs 等、様々な視点から「木づかい」を考える1年となった。君津地区の倒木現場見学及び説明会を20年2月

に行い、その後10月に倒木流通会(倒木活用等に関するレクチャー)、10月～4月に木構造設計に関する3回連続セミナー、2月に千葉の木づかいコンペ(建築作品、プロダクト作品、アイデア、プロセス・ソリューションの4部門)審査会、3月にコンペ作品の県庁内展示及び千葉の木づかいシンポジウムを開催した。この活動が今後も継続的に展開され、新たな基幹事業として定着するよう望む。

■第33回千葉県建築学生賞(3月13～14日)

県内大学の卒業設計と工業高校の作品を展示し、公開審査を経て表彰を行うもので、JIA 全国卒業設計コンクールへの出展作品も選定している。建築設計という共通のフィールドで、建築家と学生が世代を超えて交流する貴重な機会となっている。コロナ禍において、昨年に続き YOUTUBE で審査過程を生配信した。

■今後に備える

コロナ禍で百科講習会、リレートーク等の定例行事、法人協力会を含む集合型の交流・研修活動等を自粛した。行政との定期的な意見交換会として、これまでの千葉県県土整備部に加え、新たに県下中核都市である千葉市とも準備をしてきたが延期となった。これらは関係各位や友好団体と連携して企画して来ただけに残念であるが、今後再開を調整するだけではなく、改めて活動の意義や将来につながる展開方法を考える機会だと思う。

JIA メンバーは意匠設計者がほとんどで年齢層も高い。JIA の小さなくりにとらわれずに、構造、設備、環境等を取り込んだ設計に関わるオールキャストでの活動、学生や若手所員、行政や教育分野の人々との多角的な交流を具現化すべきだろう。事務局の会議室を友好団体と共有化することで拡張し、WEB 対応も整えた。コロナ禍での感染対策もあるが、将来に向けて活動を広げるための多目的スペースとしたい。

3. 埼玉地域会 (会長：村田行庸)

5/19～6/5 埼玉建築設計監理協会主催の卒業設計コンクールが中止となったため、JIA 埼玉は独自にオンライン上で書類一次審査を行った。

7/31 卒業設計コンクール一次審査通過者7名と審査員7名で2次審査を zoom を使用し開催し、JIA 埼玉最優秀賞、JIA 埼玉優秀賞を選出し、全国大会へ推薦した。

10/11 JIA 埼玉空間デザインワークショップ「気持ちいいをつくろう」～ソーシャル空間で音楽と遊ぼう～をさいたま国際芸術祭 2020 公募プログラムとして開催。市の指導に基づく感染症拡大防止対策をして、子供たちを中心に多くの参加者が、紙管やカーテンを使い空間や家具を作ったり、アーティストによるパフォーマンスや演奏を楽しんだ。

10月より、zoom による建築相談会を HP にて募集開始し、10月に1件、12月2件、1月1件、2月1件、3月2件を行った。

役員会は毎月 zoom を使い開催し、コロナ禍での活動の在り方や、次世代のアクティブ会員の増強に向けた活発

な意見交換を行った。新たな意見交換のツールとして、Slack を積極的に活用し、対面でない雑談の場を提供できるようになりつつある。

4. 茨城地域会（会長：根本洋一朗）

1. 総会の開催

茨城地域会会則第9条2項により2020年4月24日に新型コロナウイルスの感染防止の観点から書面決議により茨城地域会総会を催し、2019年度事業報告及び決算、2020年度活動計画及び予算についてご承認いただきました。

2. 例会の開催

事業の内容・予算・進捗状況の確認及び会員相互の情報交換・親睦を目的としてZOOMと会場の併用で計9回の例会を開催しました。

3. 茨城県消費生活センター建築相談への協力

茨城地域会では毎年茨城県消費生活センターの依頼により相談員を派遣し建築相談に協力しておりますが、本年度も計12回の建築相談業務に会員を派遣しました。

4. 会員作品展開催

JIAのPR及び会員の皆様の研鑽を目的として、2021年3月1日から3月31日まで第14回となる会員作品展「茨城の建築家展2020」を開催しました。開催については中止も含めて例会等で検討してきましたが、HP上の展示のみとして開催いたしました。

5. (一社)茨城県建築士事務所協会主催の茨城建築学生賞への協力

「茨城建築学生賞」は(一社)茨城県建築士事務所協会が建築文化の向上と発展に努め、公共の福祉の増進ひいては地域文化の活性化に寄与することを目指し、県内に建築系学科を有する学校各位と連携のもと、優秀な作品を表彰し、学生諸君にエールを贈ると共に、学生たちの交流を深め、建築設計業界が社会に貢献するための下地作りを目的として開催しております。例年は笠間市にある「かさまの家」に作品を展示して、審査を行ってきましたが、本年はWeb上のみの展示としました。茨城地域会では2020年度もJIA茨城地域会賞を設け「茨城建築学生賞」に協力しました。

5. 栃木地域会（代表：阿久津新平）

栃木地域会は例年地域に根差したまちづくり活動として以下の2つを行っています。

■一般市民との交流会「まち歩き、建築見学会」

■建築・まちづくりなどを学ぶ学生との勉強会「スクール in 栃木」本年度は新型コロナウイルスの感染により活動を自粛しました。

■「第37回栃木クラブ賞」公開審査会並びに授賞式を令和3年3月14日に開催しました。

例年ですと、公開審査日1週間前より出展作品を展示し、特別招待審査員をお招きして、講演会と公開審査会を開催してきました。今年は新型コロナウイルスの感染により昨年同様、県内の会員のみによる1日公開審査会となりま

した。本年度は公募作品が例年より多く、15作品出展されました。このうち2作品を事前に選考し、学校推薦6作品と合わせて8作品で公開審査を実施し、グランプリを決定しました。

■新型コロナウイルス感染のため活動を自粛せざるを得ない状況のもと 会員間の交流を深めるため、オンラインによる毎月の定例会議後「建築サロン」を週末の7時から開催しました。この「建築サロン」は一人がプレゼンターになり話題を提供し、みんなでトークをする会です。この会の盛り上がりはすごく毎回時間オーバーになりました。3回目からJIA会員候補の若手建築家達に声かけし、毎回5~6人の参加者があるようになりました。今年に入って会員以外の若手建築家がプレゼンターになったりしています。この活動により若手建築家がJIA会員と顔を合わせ意見交換をすることはJIA活動に参加する良いきっかけになると期待しています。

6. 群馬地域会（代表：上原和彦）

全世界が丸となり新型コロナウイルスと戦っているさなかに始まった今年度は『一人はみんなのために、みんなは一人のために』をスローガンに据え、コロナ渦中での活動方法の模索から始まらざるを得ませんでした。こうした時こそ全地域会員が力を合わせ困難を乗り越えようと「JIAらしいフラットな共同体」をテーマに多くの会員が関わる組織づくりを行い、更にできるだけ多くの声を運営に生かそうと全会員に向けアンケートを実施しました。結果、群馬地域会では昨年度までの活動を維持し、全ての会議と事業をオンラインにより実施することとなりました。

OGAトーク ～みんなで一緒に考えよう～

前代表発案の事業であるGAトークを今年度も継続して開催した。コロナ渦中での開催方法等の検討に時間を要したため前年度より1回少ない全5回となった。年間のテーマに構造・設備（環境）を含んだ構成としている。

・第1回「今後のリモートの可能性」7月31日開催：オンラインによる初開催となる第1回はSkypeとZoomのレクチャーを兼ねた内容となった。第1部でSkypeの説明、第2部はZoomに切り替えて説明を行った後、全員で「リモートの可能性」と題したディスカッションを行った。

・第2回「検査で困らない配筋の考え方」9月30日開催：配筋検査に立ち会う意匠設計者がチェックすべきポイントと問題となりやすい配筋の納まりなどを具体的事例を交えて明快に解説頂いた。

・第3回「エコハウスは面白い・広がるデザインの可能性」12月10日開催：外部講師として浦田義久氏を迎えエコハウスをテーマにお話し頂いた。環境性能とデザインをどう両立させてゆくかを具体的手法を交えての講演は大変興味深いものであった。

・第4回「小泉誠講演会」1月22日開催（群馬インテリアコーディネーター協会共同開催）：家具デザイナー小泉誠氏による講演会。1部では家具に留まらない氏のし

ごとを東京のアトリエよりスライドなどでご紹介頂き、2部では高崎市より実作の中継を行った。

・第5回「ウィズコロナ・アフターコロナの社会と建築」
3月24日開催：コロナに対し建築家として何ができ何をすべきなのかフリートークで意見交換を行った。当該テーマは次年度に更に議論を深める予定である。

○第9回 建築学校 11月7日開催
群馬地域会で晩秋の恒例となっている『建築学校』と称した研鑽事業を開催。この事業は高崎にゆかりの深いブルーノ・タウトが暮らした少林山達磨寺で、この地で氏が夢見た建築学校を年に一度開校するもの。今年は達磨寺ご住職の廣瀬正史氏による当時のタウトに関する様々なお話を伺った後、ご来場頂いたタウト研究の第一人者であるお茶の水女子大学名誉教授の田中辰明先生との対談まで行うことができ充実した一日となった。

○第24回 JIA 群馬クラブ学生卒業設計コンクール 2021
3月19日開催

当初3月27・28日に群馬県庁1階ホールで予定されていた学生設計コンクール 2021 が首都圏の非常事態宣言により1月時点で開催困難と判断され、支部事業である第15回 JIA 北関東甲信越学生課題設計コンクール 2021 は平田晃久氏による特別講演会と共に5月に延期、卒業設計コンクールは学生在校期間の制約から年度内開催となった。出品数も6作品と例年を大きく下回り、コロナ渦中での学生たちの苦労うかがわれた。

○まとめ

昨年度より無期延期となっている「建築シンポジウム～畑の中のバルテノン旧松井田町役場について～」(まちなか建築展併設)は感染状況が読めず今年度も開催見送りとなり、近年定着していた「まちあるき」や見学会など多数が対面する事業は実現できなかったが、今年度チャレンジしたライブ中継などの経験をもとに、次年度以降オンラインとリアルのメリットデメリットを活かし補い、また織り交ぜながら活動を継続する新しい展開の可能性を感じる一年であった。

7. 山梨地域会 (会長：奥村一利)

山梨地域会の本年度の活動を簡単に報告する。

■行政への働きかけ

○お城フロントプロジェクト：

甲府城南側 計画案を作成し動画にて甲府市に説明した。物産を扱う企業にも同様に説明した。

○甲州市ワインリゾート構想：

民間資金を活用したウィズコロナの「ぶどう郷」観光のあり方の進め方を市長に説明した。

■見学会

○会員が設計・監理を行った日蓮宗の名刹、耐震補強リニューアル後の寺を見学した。

○お城フロント提案の参考にするため、千葉県佐原市の歴史的町並みを視察した。

■「山梨県高校卒業設計コンクール」

審査を行い、賞状とトロフィーの授与を行った。

生徒のこれからの励みになればと毎年行っている。

又「北関東甲信越課題設計コンクール2020」への参加作品を選定した。(コロナ対策のためWEBでの開催予定となった。)

8. 長野地域会 (代表：新井優)

令和元年東日本台風(台風19号)災害の傷が癒えぬまま、令和2年度はコロナ禍で人々が集まることもためらう自粛社会の中での活動開始。当会では年当初よりリモート会議を導入し滞りなく会の運営を進めました。直接顔を合わせないリモート会議は違和感もありましたが、慣れてくるに従い経費の削減やより細やかな打ち合わせが出来る等、利点も多くあることを会全体で共有出来たと思います。また、活動の計画段階からどのような社会情勢になっても出来る方法を模索し活動の中止は避けてきました。

先が見えない社会情勢でしたが、信州を良く知る建築家個人として出来ること、建築家の集まりとして出来ることを精一杯進めて、微力ながら社会を良い方向に向けて行くことを目指しました。

活動テーマに『共に(友に)学ぶ』を掲げ、会員の資質の向上や交流を高めていく。その学びの成果を実務に活かし居住福祉の側に立ち建築で答えていくことが建築家の姿勢として2020年度の7つの活動方針を掲げました。

1. 地域と連携し、地域に貢献する JIA 活動を目指す。

2. 公益法人として良質な情報発信の強化を図る。

3. 魅力的な事業の展開とコンパクトなクラブ運営を心がける。

4. 会員の資質向上と業務環境の改善を図る。

5. 会員間の交流促進と新会員の増強を図る。

6. 地域会・支部及び他会との積極的な交流を図る。

7. 災害時の初動体制の準備。

・広報紙「建築家通信」を年2回発行し、また会員に必要な情報はHPに掲載しました。本年度より会員にはPDF配信として経費の削減を行いました。まちあるき等の情報発信は保存機運を高めるためにも公益性の高い内容となりました。

・年当初より「信州の建築家とつくる家 第16集」の年度末発行を目指して編集作業を始めました。第三者発行とはなりますが、当会としては本づくりを通しての会員間の交流や、仕事の質の向上の為に活動を支援してきました。本年度はサブテーマ「家づくり再考」として、withコロナ時代の家づくりのあり方を社会に紹介しています。7月には作品レビューも行い良い刺激になりました。

・恒例の夏のセミナーは、7月末に「上田市上塩尻地区のまちあるき」を行いました。講師は長野大学の前川先生・藤本蚕業歴史館の佐藤氏の案内で学生や地元の皆さん合わせて30余名の参加。「蚕種業」で栄えたまちなみと、明治からの歴史、蚕業施設としての工夫を知った。宿泊・交流会は取りやめ。

- ・会員間の交流を図る「仕事を語る会」を8月にWeb開催。会員自らの仕事を語るフリートークで話題が広がります。実は建築家同士の仕事発表は大変厳しい交流です。
- ・「建築家とまちづくりの関わり」を9月初めにWeb座学として行いました。建築家として、まちづくりへの専門家としての関わりを知り、各々の地域での活動の参考となりました。
- ・9月末には顔を合わせて第一回「地域材を考える・プロポーザルから学ぶ」を開催。昨年来より長野県の機運が高まっており、当会でも長野県担当者をお呼びして県の方針をお聞きすると共に、会員にも参加を呼びかけ実際のプロポーザルへの会員参加も増えました。
- ・佐久市に竣工した「長野県立武道館」の見学会を10月に開催。講師には環境デザイン研究所の古藤田氏をお迎えし具体的な説明をいただきました。見学後には施設づくりに関わった当会協力会による技術交流会を行いました。初めてのリモート見学参加も募集して講演のみ配信しました。
- ・当会の継続的な活動である県産材を中心とした地場産業への積極的取り組みと人的交流を図るため、第二回「地域材を考える」を11月に開催。山から里への木材流通の中で実際の山仕事や、最新の木材利用技術、里での高耐候性二次加工品等を勉強した。会員の地域材利用の意識も一層高まりました。
- ・毎年恒例の冬のセミナーですが、当初計画の滋賀県方面視察旅行は断念。替わって「浅間温泉まちあるき・技術交流会」を12月に開催。歴史と文化とそれを現す建築が多く残る浅間温泉の奥深さを知ると共に、若者が運営する空き家カフェ等、これからの温泉街の姿も予感されました。
- ・当会の最大行事でもある第15回建築祭「ひと、まち、建築 見つけようくらしの場2021」を2月20日/21日に松本市美術館で行いました。講師は小堀哲夫氏にお願いしWeb方式で文化講演会「環境と人の新しいつながり」と、学生卒業設計コンクール審査委員長を努めていただいた。事業メニュー絞り、美術館内にリモートシステムを会員自ら苦労して構築したおかげでスムーズな進行が出来ました。他の審査員は長野県建築士会会長の荻原白氏、前代表の荒井洋、若手で鎌田賢太郎、私が担当しました。大学9作品、専門校14作品、高校25作品が出品されましたが、コロナ禍で授業休止期間があったにも関わらず全体的にレベルアップしており、賞を決定するのが大変でした。
- ・台風19号被災者支援の住宅相談業務が続いており、当会でも災害対策WGを窓口に行行政や他団体とも共同して対応しています。また、4月7日には長野県災害協議会事務局長をお呼びして災害対応の詳細を勉強しました。その他にも以下の活動を行いました。
- ・JIA本部、支部への参加
- ・「工芸の五月」のプログラム『建築家と巡る城下町みずのタイムトラベル』の企画と案内。
- ・信州大学建築科建築・デザイン工学 設計製図Ⅲ 最

終講評会への参加

- ・長野県主催“信州の木”建築賞 審査員派遣
- ・上田情報ビジネス専門学校の出前講座への講師への派遣『ものづくりの楽しさを伝える雑学講座』
- ・全国学生卒業設計コンクールへの協力
- ・その他、広いエリアに散らばるメンバーで構成される長野県地域会の活動エンジンでもある7つの委員会はweb会議方式を活用して、合計数十回の準備会議を行い丁寧に会運営を進めてきました。

9. 新潟地域会 (代表：平原茂)

例年、当地域会では対外的に3つのイベントを開催してきました。県内大学卒業設計コンクール、学生課題設計コンクール、そして建築セミナーです。

コロナの影響で中止となったのが秋に予定していた建築セミナーです。仙田満氏を講師に招き、200人程度の学生や、一般市民を対象にした講演会を計画していましたが、感染予防から聴衆を1か所に集めてのセミナーは中止としました。

課題設計コンクールは2月にZoom審査を行いました。県内大学4校と専門学校、高校各1校が学内で課された住居系の作品を学校から推薦してもらいJIA会員が審査するコンクールです。Web審査はノウハウもなく手探りでしたが何とか開催でき、貴重な経験が次の大学卒業設計コンクールに生かされました。

大学卒業設計コンクールは前年度の分と正規の今年度の分の2回行いました。前年度分は春先に行く予定でしたがコロナの収束を期待して先送りしてきた結果、11月にZoomで審査を行いました。東京からは中山英之氏にWeb審査に参加してもらいました。

今年度分の卒業設計コンクールは3月21日に長岡の会場を借りて審査会を行いました。一般客は入れず、関係者のみの審査会を、Zoomで大学関係やJIA会員に配信しました。特別審査員に増田信吾氏をお招きし、10作品の中から金、銀、銅賞を選定しました。このうちの金賞が全国大会に進出します。審査の間に増田氏の講演を行い、出品者の学生たちを対象に自作の解説をしてもらいました。増田氏自身が学生たちに近い年齢であるせいか参加者たちは例年に増して熱心に聞いていました。通常は県内の4大学で競うコンクールですが、コロナの影響か1校が不参加となったのは残念でした。作品を会場に並べてプレゼンをする学生、その前で審査の意見を交わす審査員5名、それをWeb上で配信する今回のスタイルはこの環境下のコンクールでは十分及第点が付くものと自負しています。

コロナ禍は簡単に収束するとは思えません。我々のイベントも新しいスタイルを模索していかなければなりません。既に地域会の会合はほとんどZoom会議となりました。直接顔を合わせられないマイナス面はありますが、物理的な距離を意識させずに参加できることは大きなメリットと感じています。先の見えないコロナ騒ぎの中、我々はこの新しいツールに磨きをかけていくしかあ

りません。

10. 中野地域会（代表：白江龍三）

1. コロナ禍における地域会の会合について

新型コロナウイルス感染症拡大下において、通常総会を书面評決（メール・FAX）で行ったのははじめ、毎月の定例会のうち2回を中止、3回を役員会のみで切り替え、また、全てにおいて感染対策に配慮した（第3波ピーク時にはSkypeで開催）。

2. 哲学堂公園学習展示施設の在り方検討

8月に哲学堂公園の今後への対応につき、哲学堂公園とゆかりがある東洋大学関係者（長沢悟東洋大名誉教授、篠崎準教授）と協議を行った。10月に中野区長と哲学堂の取り扱いに関して面談し協議した（東洋大関係者、建築士事務所協会中野支部関係者、JIAの3者共同）。1月に東洋大、事務所協会中野支部、JIA中野地域会、3者の関係者どうしでSkype会合を行って、今後の検討の進め方に関して協議した。

3. 旧豊多摩監獄正門の保存方法に関する協議等

哲学堂公園の取り扱いに関して区長と上記の面談中に、区長より旧豊多摩監獄正門の保存方針に関する所轄と我々専門団体との合同検討の場の設置を提示されたが、これが実現しないまま同正門の現地保存の方針が覆され、曳家保存の方針が決定された。これに関し後日所轄（文化国際交流課長及び子ども教育施設課長）とJIA中野地域会+事務所協会中野支部との会合が設けられたが、協議の場ではなく、結論の説明会となってしまった。3月12日に関東甲信越支部長・保存問題委員長との3者連名で「旧豊多摩監獄正門の曳家保存に関する要望書」を中野区長へ提出した。

4. 中野駅新北口駅前エリア再整備に関して

9月に中野区中野駅周辺まちづくり担当と面談（建築士事務所協会と共同）し、事業施行者選定プロポーザルの状況についてヒヤリングを行った。3月12日にも同担当に対し、事業施行者決定に伴う中野駅新北口エリア再開発のシンポジウムを区民に向けJIAが主催ないし区と共催する可能性等について打診した。

5. 建築法規等勉強会の実施

10月7日に建築士事務所協会と共催で法規等の勉強会を実施した。講師は寺田孝博氏

6. こども空間ワークショップ

11月28日に新宿区立落合第六小学校にて空間ワークショップを地域会として実施した。その際の記録をドローン撮影で行った。先立つ10月11日には埼玉地域会の紙筒による空間ワークショップに1名が参加した。

7. イベントの中止

- ・ **バスツアーの中止** 建築士事務所協会と共催で恒例となっていた区民と著名建築等を見学するバスツアーは、コロナウイルス感染症拡大を考慮して中止とした。
- ・ **まち歩き中止** 恒例となっていた区民参加のまち歩きは、昨年から中野区のイベントに参加、今年も同じ形で開催の予定だったが、コロナ感染症拡大のため区のイ

ベントが中止になり、それに伴って中止とした。

11. 三多摩地域会（代表：高田典夫）

2020年度は、4月7日のコロナ禍での「緊急事態宣言」で始まり、不要不急の外出制限などそもそも活動自体が制限される状況となりました。

例年通り、3月中から今年度分の実施の依頼が数多く届き、今年度も三多摩地域会としての主たる活動となるはずでしたが、今年度前半は先の全く見えない状態となり、7月までに予定されていた空間ワークショップは全て中止か自粛による取り止めとなりました。

今年度初ワークショップは、8月8日の東大和市立中央公民館での夏休みイベントで、参加者を半数に限るなど、とりうべき感染症対策を取り、実施に結びつけた公民館担当者に感謝・・・その後、

9月18日 八王子市立横川小学校

10月3日 東村山市立南台小学校

11月20日 八王子市立浅川小学校

1月23日 八王子市立陶鎔小学校

3月10日 八王子市立元八王子東小学校

の5校の実施コーディネートをするともに、世田谷区立の4校、杉並区立の2校、新宿区立の1校、渋谷区立の1校、中央区立の1校、横浜市立の1校、板橋区立の1校の実施サポートをした。また、2016年より実施協力をしている実践女子大学日野キャンパスを舞台としたライトアップ・プロジェクト「光の庭」の会場構成（会場空間演出：実践女子大学建築デザイン研究室）に繋がり、引き続き、新たな空間提案のサポートをするとともに、この活動に関心を持つ若い世代を育て、地域とともに生きる建築家の存在を示している。

12. 杉並地域会（代表：石井祐樹）

今年度は、昨年度に続き、より良い住宅都市・杉並の環境の構築を目指し、専門家、市民、行政が合意にいたる「プロセス」の可能性をさぐる事をテーマとしていましたが、コロナの影響で対面の活動が大きく制限される事となりました。地域会では、早々に活動会議をオンラインに切り替え、このような状況下での活動を議論しました。結果、混乱が落ち着くであろう秋ごろを目途に「杉並 with コロナ時代のまち・いえ」と題し、2回のオンラインでの講演を行うこととし、コロナ時代の新しい暮らしを市民の皆さんと考え、これからのまちに必要な事柄を一緒に見出していくことを目指しました。

今後も土曜学校のこれまでの成果を踏まえ継続していくなかで、より具体性を帯びたテーマの設定、活動の手法を検討しつつ活動事業を進めていきます。

1) JIA 杉並土曜学校 年間テーマ「杉並 with コロナ時代のまち・いえ」

第1回「変わるまち」ー建物に寄り添う魅力的な屋外空間ー

11月28日（土） オンライン開催

パネリスト：千葉皓史「雑木の株立ちによる景観づくり

と街文化」

パネリスト：多治見智高「特別な2020年／お店・まち・音楽」

コーディネーター：寺尾信子「建物に寄り添う魅力的な屋外空間とは」

第2回「変わるいえ」一家はスタジオ／社会とつながる小さな情報基地ー

2月20日(土) オンライン開催

パネリスト：稲垣淳哉

コメンテーター：石井祐樹

コーディネーター：利光収

2) 杉並建築会

今年度はコロナのため活動見合わせ

3) 活動会議

毎月第二水曜日を定例とし、12回の活動会議を行いました。

また、今年度はオンライン開催とし、時間を例年から変更をしました。

コロナが落ち着いた後も、オンライン併用とする事を考えています。

4) 2019年度通常総会

コロナ禍の為、書面決議とした。

13. 新宿地域会 (代表：広谷純弘)

昨年度の新宿地域会の活動は下記のとおりでした。

※注記：2019年度2.3月に引き続き、2020年度4.5.6月の例会は開催されなかった。

1. 新宿地域会リーフレットの発刊

新宿地域会リーフレットが3月に発刊した(1000部)。

2. 「新宿建築100景」改訂および関連事業

景観・建築マップ「新宿建築100景」(2017初版)の和文第二版を2021年3月に発刊し(6000部)、区立図書館等へ配布した。この和文第二版において三社、計60万の広告収入を得ている。

3. 若い世代の建築家向け事業

若手会員の入会促進と活動参加促進を進め、地域会活動を次世代へ受け継いでもらうための下地作りをした。

4. 他地域会、建築事務所協会、建築士会との交流

行政への働きかけへの基盤作りのため、新宿建築設計三団体が年1回程度を目安に輪番制でイベントを企画する。2020年度はJIA新宿地域会が担当幹事となり、講演会(ウェビナー)「SDGsと建築環境デザイン」法政大 川久保俊准教、を開催した。(4/3)

5. 新宿区との連絡、連携

新宿区における応急危険度判定員への連絡訓練実施に協力した(1/19)。訓練は新宿区建築課からのメール連絡に判定員が応えるものであるが、各団体登録判定員名簿の作成と、訓練予備連絡に関して協力した。

名簿管理、連絡情報の管理共有などに問題点が散見され、新宿区との調整が必要と思われるが、年度末を迎え打合せは出来ていない。

※恒例となっていた新宿区主催の新年交礼会(1/5予定)

はコロナ禍の影響で中止となった。

14. 城東地域会 (代表：小川成洋)

本年度から地域会代表が交代し、新体制が開始と同時にコロナ禍となり、手探り状態で、この状況下でも出来ることを模索した1年でした。

■東京水景デザインサーベイ

東京の城東エリアの水辺空間の再整備に向けた提言のために、東京ならびに近郊の優れた水辺の景観調査をおこない、あわせてセミナーやシンポジウムを開催するイベントです。

本年度も春に「水郷佐原まちづくり探訪」を予定していたが、コロナ禍で延期となり、2021年度の事業として開催する予定。

■メキシコ建築・都市デザイン報告会

コロナ禍での最初のイベントとして実行したWeb講演会。メキシコの街や建築が色彩豊かな深い理由を探る、興味深い講演会となりました。

初めての試みとして行ったWeb講演会でしたが、30名近い参加者が集まり、Zoomでの講演も聴きやすく見やすいと好評でした。リアルな参加者がいなくても、臨場感の感じられる講演会と成りました。

■城東小学校子供空間ワークショップ

未来を担う子供達が、ものづくり、共同作業、建築間の楽しさを体験することを目的としたワークショップです。

今年はコロナ禍で開催も危ぶまれましたが、時期を遅らせて、中央地会と連携し、中央区立城東小学校でワークショップを開催出来ました。子供たちの夢な姿が、一時コロナ禍を忘れさせてくれました。

■すみだアーバンデザインコンペ地域会賞選考会

城東地域会では、これからの活動として、地域内にある大学との連携を検討しています。

その手始めとして、墨田区に新たに校舎を構える千葉大学との連携として、千葉大学・専門職大学(IU)・墨田区が行うコンペに後援として協力。独自に城東地域会賞を設け、積極的に参加しました。

■なりたて建築士のための設計コンペ

その年の一級建築士合格者を対象にした提案型コンペ「なりたて建築士のための設計コンペ」を昨年度の続き、開催予定だったが本年度はコロナ禍で延期となりました。しかし、本年度と次年度、合わせて2年度分のコンペを、今年度末から次年度にかけて実施する事にした。2021年4月10日に公開審査会と講演会を開催予定とし、準備や告知をおこないました。現時点で19作品が集まり、盛り上がりを見せています。

15. 文京地域会 (代表：手嶋保)

文京地域会では建築士会文京支部が連携し[文京建築会]を立ち上げ、連携を図ることで建築・まちづくりに関連した職能の向上を目指すとともに、会員相互の交流と親睦をはかり地域社会に貢献することを目指していま

す。また会以外の建築人の方々や区民、行政、専門家とも文京区という地域を舞台に共に活動し、交流を深め、様々な活動が行われ現在も展開されています。おもな活動内容について下記にご紹介いたします。

●文京区見どころ・絵はがき大賞

文京区の自然や都市景観、祭りやイベントなど区の魅力を紹介する「絵はがき」を公募し表彰しており、地域の人々とのつながりある活動の場となっています。今年度で10回目の開催を予定しておりましたが新型コロナの影響で開催を見送りました。今後は状況を見て開催の是非を検討して参ります。

●小石川フォーラム

建築家を目指す若手や学生などの交流の場として小石川フォーラムを立ち上げました。新型コロナの影響で開催を見送りました。今後はオンラインなどで開催を検討して参ります。

●姉妹地域会との交流

姉妹地域会である京都地域会と毎年、相互の地域を訪れ交流を行って参りましたが、本年度は新型コロナ禍もあり、オンライン建築家交流戦と題し、各々5名ずつの建築家の作品のプレゼンテーションを行いました。非常に盛況となりました。

●文京と区との協定

「建築の専門家が文京区の防災対策、復興まちづくり等を支援するための協定」を区と結び、建築士会文京支部、事務所協会文京支部とともに一体となって協定を結び、現在は区との情報交換会を行っています。

16. 渋谷地域会 (代表：南條洋雄)

20年度は新型コロナウイルスの感染拡大のための前年度2月より例会の中止が続き、4月には緊急事態宣言が出された。渋谷地域会も4月の通常総会は見送り、4月末に正会員に総会資料をメールにて配布、5月11日までに意見、承認を集約。12日に完了し、総会成立となった。正会員49名、会友16名で副代表の役員定数を増員する規約改正を実行。スムーズに組織を新陳代謝できる体制にした。

5月以降の例会はZOOMによるリモート例会でスタートした。最初は手探りで近況報告やゲストにレクチャーをお願いしたりして、今までの例会をリモートに置き換えて実験的に進めた。会員は自宅でも出先でも、あるいはボストン在住の会員でも同じ場に参加できるメリットもあった。回を重ねるにつれて会員、会友はリモート会議での発言、プレゼンテーションに馴染んできており、1月には恒例の参加者が画像を持込んで語る新年会CHIT-CHATTING NEW YEAR on ZOOMも行われた。

例会活動とは別に8月には渋谷区役所主催の「渋谷の住まいの未来像」というテーマで住宅マスタープランの策定に関わる意見交換会に参加した。

緊急事態宣言下においても今までと同様に会員間の親睦やビジネスチャンス獲得につとめるとともに、

毎年ながら参加することが「楽しく役に立つ地域会」を心がけた。

■例会開催状況■

4月27日～5月12日通常総会(電子メールによる開催)

5月27日(木)ZOOM 例会実験、近況報告会(リモート会議)

6月25日(木)学ぶ会、川原「DURAVITを学ぶ」(リモート会議)

7月16日(木)語る会「会員の作品発表」7名の近作を披露(リモート会議)

8月22日(土)「渋谷の住まい未来像」意見交換ワークショップ参加

8月29日(木)学ぶ会、及川副代表「渋谷の空き家活用について考える」(リモート会議)

9月24日(木)語る会、高俊民+高階「GLORIA HOUSE 計画から完成まで」「サドベリー報告01」(リモート会議)

10月22日(木)語る会、松田「ローマのあれこれ」高「サドベリー報告02」(リモート会議)

11月26日(木)学ぶ会、平井副代表「お茶の話」(リモート会議)

12月17日(木)語る会、平井副代表「フランクロイドライト、山邑邸見学」柳「板橋区立美術館リノベーション」高「サドベリー報告03 テーマ食」(リモート会議)

1月28日(木)新年会「NEWYEARS' CHIT-CHATTING2021」(リモート会議)

2月25日(木)語る会、南條代表「ヨーロッパ都市文化の片鱗をベネルクスに見た」他(リモート会議)

3月25日(木)学ぶ会、岡田「改正建築物省エネ法、緊急解説」他(リモート会議)

17. 世田谷地域会 (代表：柿崎豊治)

□区内小学校での空間WS 及び空間ワークショップフォーラムへの参加を行った。新型コロナウイルスが流行し緊急事態宣言が発出される状況の中、実施を見送る小学校が多かったが、一部実施された小学校では小学生生活の思い出の貴重な一ページとなったとの謝辞をいただいた。

□「世田谷区民会館・区庁舎の建築と広場 保存再生に向けた活動の記録」の増刷を計画したが実施しなかった。

□行政との連携では昨年に引き続き世田谷区建築物安全安心協議会に参加しているが、今年度の協議会は実施されなかった。

□世田谷区地域風景資産を巡るまち歩きを継続して開催する予定であったが、新型コロナウイルス流行のため見送りとなった。

□小学校空間ワークショップ実施に際して東京建築士会世田谷支部の協力を得た。同会との連携強化に向け検討を行った。新型コロナウイルスの流行の為、全般に活動が停滞したが、支部のZOOM 会議サイトを利用して定例会の開催を継続した。

18. 千代田地域会 (代表：大橋智子)

2020年度は、正会員、準会員、協力会員合計22名で活動を行いました。新型コロナウイルス感染拡大により、人が集合する活動が大幅に制約をうけ、会合はすべてオンラインとなり、行事は縮小または中止を余儀なくされました。年度初めの混乱はありましたが、WEB例会は8回開催しました。これを機会に、オンラインによる参加のしやすさを活用して活動形式の工夫を加え、非会員の建築家、協賛企業、学生・市民へと、開かれた活動を構想しています。そのほか今年度は、以下の活動を行いました。

■活動-1【千代田区を舞台とした学生設計展】

「千代田区を舞台とした卒業設計展」としてスタートし、その後対象を大学の課題設計や大学院修士設計まで広げてきたこの事業も、第13回目となりました。今年は、コロナ禍による活動制限のため、会場での展示を行うことができなくなり、レンタルサーバーに作品展示のWEBサイトを開設して8作品の画像をアップし、各方面にメールで案内を発信し、チラシを配布するとともに、JIA 関東支部のホームページから展示サイトへリンクさせました。サイトは11月8日から3月31日まで開き、1月17日に、出展者の作品説明と作品講評その他の議論を行うトークセッションをZoom会議形式で開催し、多くの方に参加頂きました。また、「JIA 千代田地域会2019学生最優秀作品賞」1点・「同優秀作品賞」7点を選び、表彰状と記念品を送付しました。

■活動-2【公開メンバーズトーク・ゲストスピーチ】

公開「メンバーズトーク」をWEBで3回行ないました。

6/30 第36回「Shanghai Bund 街歩き」東條 隆郎

7/28 第37回「ゼロ・エネルギー・住宅 (ZEH) について」赤堀忍

10/28 第38回「意匠法改正—建築物が意匠権の対象に」尾谷 恒治

■活動-3【富士見小学校社会科授業】

区立富士見小学校児童に対する社会科出前授業「凸凹まち歩き」は中止となりました。3年生の授業では、前年の「凸凹まち歩き」に使用した地図等の資料が使用されました。

■活動-4【保存,再生】

神田神保町2丁目さくら通りにある「旧相互無尽ビル(神保町ビル別館)」の解体のニュースが流れたため、保存を提起する活動を行い、9月28日に支部・保存問題委員会と連名で「保存活用に関する要望書」を小学館不動産(株)に提出しました。残念ながら、同ビルは、解体されました。

19. 中央地域会 (代表：小田恵介)

○ 教育活動 | こどもワークショップ

中央区立城東小学校 第11回 空間ワークショップ(城東、千代田地域会と共催)。

開催日時：2020年12月21日(月)。

城東小学校は震災を受けて、先生も生徒達も建物の耐震

について関心が高い。ワークショップ前の図工の時間に、家の耐震構造について構造建築士が授業を行っている。2020年度は12月に、竣工した仮移転先の阪本・城東小学校の校舎の中で、屋上の半屋外スペースで4班に分かれて実施した。今年は6年生約30名のみが共同で作品を構築した。毎年、各班とも作りながらイメージが膨らみ、短時間で素晴らしい空間構成が出現する。生徒たちは例年通り素晴らしい体験ができた。校舎は震災復興小学校として1929年建設されたが、既に再開発が決定され、超高層ビルの中に2022年度には再開発ビルが完成し、超高層ビル内に設置される初めての小学校となる。

○ 地域交流活動

2012年11月より、JIA保存問題委員会との協働で、「三原橋センター」の解体に際して各種の意見交換会を重ねた。2015年に解体されたが、資料のアーカイブ化のため資料整理を地域の人と進めている。2019年度は、関連資料の具体的な保存方法を検討する。4月にコアメンバーの大絵晃世氏から収集資料の提供の申し出があり保存先を検討中。

○ 会員交流活動

2016年6月に中央地域会設立10周年を迎え、昨年度は13年目。月例会は会員の事務所視察を兼ねて実施し、2016年は7つ、2017年は8つ、2018年は3つの事務所訪問して、会員の日々の活動の一端に触れ交流を深めた。今年は残念ながら諸般の事情で開催できなかった。11月に大嘗宮一般公開に合わせて見学会を行った。2020年度はコロナ禍で活動は休止した。

○ 中央建築三会の立ち上げ

文京、新宿地域会他に倣い、中央建築三会の立ち上げについて、2017夏以来、士会、事協会とも打合せを進めており、2019年3月に士会・中央支部設立総会が開催され、新年度から具体的な活動がスタートしたため、近く、中央建築三会を立ち上げる。同年4月に三会の代表他の役員が集まり、今後の連携の可能性について協議した。中央区からの期待も大きく、三会が緊密に連携しながら、これまで以上に地域に根ざした活動を行う。各会の思惑の違いから具体的な活動には至ってない。

20. 城南地域会 (代表：木村利雄)

2020年度は、新型コロナウイルスで始まった年度でした。月例会もWeb会議でおこなうこととし、通常総会も書面決議で開催をしました。このような状況下、あわただしく年度がスタートしました。4月には、「大田区公共施設建築基準法12条2項(建築)及び4項(設備)点検業務」について大田まちづくり公社とJIA関東甲信越支部とで業務委託契約を締結し、また同月、「NPO法人 城南・風景とまちづくりクラブ」の法人設立を行い、地域会の活動の場を広げることになりました。

主な活動は、10月の第10回を迎える「ふれあいフォーラム」、そして11月の「第20回城南散歩」の実施になります。そして2020年は大田区公共施設の点検業務がありました。第10回フォーラムは、「みち」と「ま

ち」そこに住んでいる人たちみんなで作る」をテーマに、講師として地元の活動家横山氏を迎えて「江戸町」品川猟師町周辺の道・町並み、海岸線、町界町名の変遷」について基調講演をしていただきました。地域会ではフォーラムの趣旨を専門的な知見を加えた「話題提供」、ディスカッションに導く場ととらえています。今年は試みとしてふれあいフォーラムを、リアルとオンラインで実施しました。参加者は会場には18名、オンラインは7名でした。オンラインによる課題としては参加される方には高齢者の方も多くネット環境になれていない、などオンラインによる開催の課題が残りました。

今年は試みとしてコロナ禍のため、6月に品川・旧漁師町をテーマに「城南オンライン街歩き」をWeb会議（ツールとしてZOOMを使用）方式で約40分間開催しました。オンラインでまち歩きが可能かの試みです。

「第20回城南散歩」はフォーラム前の10月10日に開催予定でしたが、台風のため11月21日に順延となりました。ナビゲータにはフォーラムで基調講演をしていただいた横山氏にお願いし、イヤホンガイドを使用していた「品川猟師町歩き」になりました。天候にも恵まれ一般7名、会員10名の参加で成功裡に終えることができました。

ところで前後しますが、6月末には品川区から「品川区水とみどりの基本計画・行動計画の改正検討委員会への参画」の依頼を受け、会員がメンバーとして参画しています。3回の委員会の開催が行われました。また8月には、大田区災害時優先携帯電話が城南地域会に配備されることになり、大田区在住の会員に担当していただいています。このような活動と並行して、会員が分担して7月から12月まで大田区公共施設87施設の点検業務を遂行しました。年が明けた1月には、アーバントリップ実行委員会が主催する「大井町パブリックスペース見学会・シンポジウム」に地域会は共催、NPO城南風景とまちづくりクラブは後援の形で協力体制を準備していましたが、国から緊急事態宣言が出され開催は延期となりました。

このように、2020年度は様々な試みと新規活動を展開する年度でした。会員の皆様のご協力ありがとうございました。

21. 城北地域会（代表：鈴木和貴）

昨年度末に予定していた街歩きは「延期をするがいつでも再開できるように準備しておく」と昨年度の活動報告書に記しましたが、結局、街歩きどころか例会も一堂に会しての開催をすることができず、例会は年次総会も含め全てZoomでのリモート開催でした。

しかし、地域会誌「KNIT #6」が出来上がり、それらを配布したり合冊するケースを作成したりと、わずかながらの人との接触の機会の中で地域の方々などから受けた言葉からは、地域会の活動やJIAに対しての期待をより強く感じるものでした。さらに、その意識を強く感じたのは、空間ワークショップの活動においての毎年継続し

て開催をしてきた板橋区立加賀小学校からの開催要請であり、子供達の置かれた社会環境や感染拡大状況を考慮し検討した上で実現しました。

1) 地域会誌「KNIT #6」の発行とこれまでの号を合冊するケースの作成

執筆者は昨年度のうちに脱稿していましたが、最終校正や装丁など仕上げの作業が年度をまたぎ、印刷を終えたのは6月でした。早速、地域でのまちづくり活動団体や行政、図書館などの公共施設、空間ワークショップでお世話になった学校や団体などに配布しJIAや地域会の活動を紹介しました。お受け取りいただいた方からは書面での礼状も含めご意見やご感想をいただき、改めて地域の課題や地域での建築家の役割の大きさに気づかされました。発行部数は1,500部。城北地域に在住しないし在勤のJIA会員にも郵送し、今年度末では約500部の残部があります。また、これまで計6冊を発行したもので、各号の残部が200部以上あることから、1~6号を合冊できるケースを200個作成し、今後は初期の号をお渡ししていない方への贈呈や地域会を紹介する機会などに活用していきます。あわせて、国立国会図書館へも納本しました。永田町の東京本館と関西館のそれぞれに、各号1冊ずつ収められています。

2) リモートでの例会

主な議題は「KNIT #7」のテーマについてですが、年度末時点で少しずつ意見が収斂してきました。次年度では、そのテーマを確定し発行までできることを目標としています。また、例会では、会員より話題提供やショートレクチャーも企画され、街歩きとは違った地域の情報の提供や街の魅力の紹介がありました。

3) 空間ワークショップの開催

板橋区立加賀小学校での開催は4年連続となりますが、当初予定をしていた1月16日は緊急事態宣言の発出のために2月20日に延期となり、さらに宣言の延長から3月17日にさらなる延期となりました。翌週に卒業式を控え宣言解除とならない中、活動状況に配慮することとして開催し、6棟の思い思いのイエが完成しました。対象：6年生 2クラス・6班・63人

また、ワークショップに先立ち「たてもものをつくる・まちをつくる」と題して建築やまちづくりについて事前授業を行いました。スライドを観終えた子供達からは色々な質問があり、建築家になりたいと言う子供もいて、建築に対して興味深く接してくれている様子は、空間ワークショップを継続して開催しこれまでの様子を見てきたことも、そのモチベーションとなっているのではないかと想像しています。

22. 港地域会（代表：宮田多津夫）

今年度はコロナ禍の影響で地域会活動が大きく制限を受けました。まず、月例会での意見交換は、65歳以上の会員が多数のため、リアル会議を控えてWEBでの開催実施としました。切り替え当初はWEB会議に慣れていない会員も数名おり、そのフォローアップに少し時間を要

しましたが、会員相互の協力により WEB 月例会も回を重ねるごとにトラブルも少なくなりリアルと同様な会議が実施できました。

■JIA マガジン掲載の「建築家が取り組む SDGs 建築」では、2000 トンのCO₂削減を実現した「MHS 本社ビルリノベーション」を推薦し掲載しました。

■6 月定例会では、「国内外の図書館事情」と題して、2019 年 12 月竣工の ALA Architect 設計のヘルシンキ中央図書館と平田晃久設計の太田市美術館図書館の視察状況を説明、最新の図書館機能は、本の貸し出し機能から人の出会う場所への変化を確認し、街の一人一人が本を通じて繋がる機能の大事さを学びました。

■9 月定例会では、大倉さん、連さんより「日本型規制社会と知的生産—イタリアンセミナーから学ぶもの」についてのレクチャーがあり建築基本法の意味を再確認しました。災害や事故により規制強化の法規制が進むことへの矛盾を確認し持続可能なエコ社会にあった法律の制定を学びました。

■MAS セミナーは、一般市民との親睦と交流を高めるために実施している大事なセミナーで、今年で 33 回目になりました。コロナの影響で開催時期を 2 度延期し実施が危ぶまれたが、3 月 20 日（土）に WEB の ZOOM セミナーで実現させました。「with コロナ時代と建築—抛り所を求めて」という課題で 10 数名の参加者のもと、2 時間で 7 名の会員発表と一般市民との討議を行ないました。WEB 開催は心配がありましたが、発表内容と発表者が明確になるメリットもあり、今後の開催方法の在り方を評価できる良い経験となりました。来年度は、年間 3 回の通常開催に向けて現在準備中です。

23. 目黒地域会（代表：木村丈夫）

2020 年度の地域会活動はコロナ禍の影響で縮小を余儀なくされた中、下記の活動を実施しました。

●月例会は 1、2 月のみ支部で開催しましたが、3～5 月は中止とし、6 月以降は ZOOM にて開催となりました。ウェブ会議に不慣れな高齢メンバーが多く、リアルな会議のようなコミュニケーション密度に到達できず悪戦苦闘の連続でした。

●市民交流事業として例年 2 回ほど実施している「まち歩き」は中止せざるを得ませんでした。

●市民交流事業として様々な領域で活躍されているゲストのお話を聞く「街かどトーク」は、ようやく 10 月 21 日に JIA の会議室をスタジオにして ZOOM でのオンライン配信で実現できました。「北欧から学ぶサステイナブルデザインと新様式での暮らし」というテーマで、代官山ヒルサイドテラスで北欧家具のお店を構えていらっしゃる今田憲一さんのお話を伺い、後半は地域会会員で北欧通の棚橋廣夫さん、関本竜太さんにも加わっていただき北欧文化やデザインの魅力についての幅広い話で盛り上がりました。幸い 50 名近いオンラインでの参加者がありました。

●目黒区が企画する事業については、2 件の提言を致し

ました。

①井の頭線駒場駅前公務員住宅跡地活用の事業コンペに際しては、計画敷地外である隣接する駒場野公園内の散策路と再開発エリアとの連続した歩行動線が地域の安全な歩行空間にとって不可欠との判断で、ケルネル田圃に沿う遊歩道を計画し、区及び地域連絡協議会に提案しました。

②「目黒区民センターの見直し」について、建物の老朽化→建直しという SDGs の精神に逆行するような方法ではなく、「直して使う」「必要なものがあれば加える」などの極力環境負荷の少ない方法で現在の施設を改善し、これからの区民の要望に応えるべきとの意見書を提出しました。

●2020 年度の目黒区景観アドバイザーとして地域会所属の平倉直子さんを再度推薦しました。